



広報

ツカがる

2008
2.15
No.73



「オンリー・ワンの雪だるま」できるかな!

あつまれ!! ウィンターフェスティバル
道の駅もりた「アーストップ」にて【6ページに関連】

地産地消 女性らのアイデア作品ずらり



創意工夫コンテスト作品展示（衣の部門）

1月24日、松の館で「第24回 つがる市くらしの工夫展」が開催され、大勢の市民でにぎわいました。

くらしの工夫展は、市内の女性団体等が地域に伝わる暮らしの知恵やアイデアを生かした食品や工芸品を披露する場として開催されており、開会式で市生活改善グループ連絡協議会の原田ひとみ会長が「今回の作品は、辛抱から生まれたアイデアいっぱい優秀な作品ばかりですので、参考にしてください」とあいさつしました。

くらしの工夫展 地元農産物で創意工夫



つがるブランド農産物8品目を利用した料理

会場では、さまざまなイベントが行われ、くらしの創意工夫コンテスト「食の部門」では、つがるブランド農産物8品目を活用した自慢料理がずらりと並べられ、「衣の部門」では農業やくらしの知恵をいかしたりフオーム作品が展示され、訪れた市民は熱心に見入っていました。

来場者の一番の関心は、地元農産物を利用した料理コーナーでゴボウのから揚げ、長いものゆかり漬け、メロンジュース、すいかの粕漬け、フライパンアップルケーキ等の実演や試食コーナーで、長い列を作っていました。

また、野菜や加工品等の販売も飛ぶような売れ行きで盛り上がっていました。



地元の農産物を使った料理を試食する市民たち

くらしの創意工夫コンテスト
コンテストは、ブランド農産物8品目利用の部門71点、地元農産物利用料理の部門17点、衣の部門66点の審査が行われ、作品はどれも思考をこらしたもので、商品として販売できそうなものも多数ありました。コンテストの結果は次のとおりです。

つがるブランド農産物8品目利用の部門

	氏名	作品名
金賞（県知事賞）	JA木造町女性部（木造）	Made・inつがるケーキ
金賞（市長賞）	山本 七代（木造）	長いもしおから
銀賞	原田ひとみ（柏）	玄米と長いもせんべい
	松橋 京子（柏）	カリッサクッアップルパイ
銅賞	盛 章子（森田町）	トマト・黒大豆のご飯
	神 キヌヨ（柏）	ネギの保存食
	柏ViC・ウーマンの会（柏）	がんもどき
	長谷川淑子（木造）	ヨーグルト入りメロンババロア

創意工夫コンテスト「衣の部門」

	氏名	作品名
金賞	山本 美子（森田町）	コート
銀賞	山本 恵子（稲垣町）	思い出のベットカバー
	長谷川トキ（木造）	らくらく作業着3点セット
銅賞	三上 晴子（稲垣町）	Yシャツからの変身
	成田 幸子（木造）	バックとポーチとエプロン
	藤田美代子（稲垣町）	手さげ

創意工夫コンテスト 地元農産物利用料理の部門

	氏名	作品名
銀賞	山谷美栄子（木造）	ふるさとの香り
銅賞	奈良 秀子（森田町）	野菜入りクラッカー
	丸山 栄子（木造）	赤パプリカみそ

※各部門の金賞作品(写真)は12ページに掲載しています

「歌会始」に入選

天皇、皇后両陛下の前で歌詠まれる

―県人では12年ぶり7人目―

1月16日に皇居・宮殿「松の間」で新春恒例の宮中行事「歌会始の儀」が行われ、中村正行さん（車力町屏風山）の詠進歌が入選して詠み上げられました。歌のお題は「火」で応募総数22、321首の中から10人が入選し、県内からの入選は12年ぶり7人目の入選者となりました。



中村正行さん

●プロフィール
なかむら・まさゆき 79歳（車力町屏風山在住）
昭和47年 青森県文芸新人賞受賞、第18回角川短歌賞受賞
ペンネーム 「江流馬三郎」、「中村雅之」

短歌は私にとって生きがい

中村さんは小学生時代から石川啄木や若山牧水の短歌に親しんでいました。短歌は短い言葉で感動を端的に表現できるという魅力に取り付かれ、本格的に短歌を作ったのは終戦後からで生きがいとして一生続けたと話しています。

農作業に出かけるときは、鉛筆と紙を常に持ち歩き、トイレや枕元にも鉛筆と紙を置いて思い浮かんだ言葉をメモするのが日課となっています。

昭和47年には青森県文芸新人賞と第18回角川短歌賞を受賞しており、歌会始の儀への応募は20年ほど前から8回の応募をしてきました。

昨年の7月から8月にかけて体調を崩し、米作りをあきらめると共に今回の応募は無理だろうと感じていましたが、その後幸いなことに体調が回復したことから農業に復帰し9月30日の締め切りになんとか間に合わせることができ応募しました。

●中村正行さんの歌

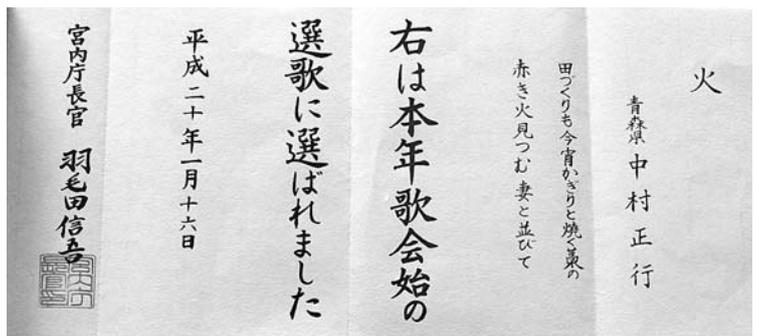
田づくりも今宵かぎりと焼く藁の
赤き火見つむ妻と並びて

最高の幸せを感じた
「歌会始」の儀

今回の入選した歌「田づくりも今宵かぎりと焼く藁の赤き火見つむ妻と並びて」は、稲刈りをした後でわらに火を付けた情景を詠んだもので、米作りもこれまで最後かもしれないという寂しさと長年連れ添ってくれた妻への感謝の気持ちを込めた歌です。

歌会始の儀では、咳をすることや物音ひとつ立てることができないほど厳粛な雰囲気の中、天皇、皇后両陛下の前で中村さんの歌が詠み上げられました。

中村さんは「とても緊張しましたが、人生の中で最高の幸せを感じました」と話しています。今後は自分の故郷を見つめ直し、故郷を原点として世の中全体を見るような歌を詠んでいきたいと意欲を新たにしています。



中村さんが受け取った歌会始の入選証書

陛下からのお言葉

歌会始の儀が終了すると入選者たちは「連翠の間」に通され天皇、皇后両陛下との懇談が行われました。中村さんは天皇陛下から「お体の具合はどうですか。早く良くなってくださいね」とお気遣いのお言葉を掛けられました。

また「稲作はやめられるのですか?」と尋ねられると「体調が回復してきたので、もう1、2年は頑張ろうと思っています」と話したそうです。

「温かい心を伝えたい」と 本を寄贈

1月8日、坂本良子さん（木造曙）が教育委員会を訪れ、市内の中学生に読んでもらおうと自費出版した本を寄贈しました。

寄贈した本は姉の鈴木多恵子さん（北海道旭川在住）の手記を「私と子スズメちゃん」という一冊の本にしたもので、鈴木さんと子スズメとの出会いや体験等が書かれており気持ち癒される内容になっています。

樋口指導課長は「貴重な本ですので、一人でも多くの生徒たちに読ませたい」と話していました。



出版した本の内容を話す坂本さん（左）

福祉に役立てて

1月16日、県立木造高校生徒会が市役所を訪れ、空き缶回収をして得た収益金25,230円を寄附しました。生徒会では、活動の一環として空き缶回収を行い、その収益金を社会に役立てようと取り組んでいます。

今回は、昨年の夏から校内で集めたアルミ缶222kg、スチール缶230kg分を換金したもので、生徒会長の水口翔太君（2年生）が「福祉行政に役立ててください」と福島市長に手渡しました。

福島市長は「皆さんの善意に応えられるよう有効に使わせていただきます」と話していました。



空き缶回収の収益金を手渡す生徒会の皆さん

「中心市街地の活性化を探る」

1月12日、松の館でつがる市の中心市街地活性化の方策を探るため、市民ら約100人が参加してシンポジウムが開催されました。

市商工会は、中心市街地活性化に伴う事業の実施計画を策定するため、昨年、中心市街地活性化計画策定委員会を設立し、市民と行政が協働しながらまちを育てるプログラムについて議論を重ねてきました。

今回のシンポジウムは、市民に商店街の現状を理解してもらい、活性化の必要性を認識してもらおうと弘前大学教育学部副学部長・大学院教授の北原啓司氏を講師に迎え「中心市街地を考える」というテーマで基調講演が行われました。

北原教授は「中心市街地の活性化は箱物を造るだけ



活発な意見を述べる5人のパネラー

でなく、身の回りに眠っているものや廃れているものを発見、発掘していきましょう。商店街の活性化は、商店街に関係のない人もまちづくりに参画して「まち育て」をキーワードに市民みんなが活性化されなければいけない」と述べ、青森市や弘前市などの事例を紹介しました。

また、パネルディスカッションでは、弘前大学大学院の檜楨貢教授がコーディネーターを務め、パネラーには秋田谷要蔵特別参与、野呂充志商工会長、長谷川靖久さん（商店街代表）、奈良衛さん（NPO法人あいうえおの会理事）、八木橋リウ子さん（農業関連・一般市民代表）ら5人が「市民の健康を守るためにも病院の整備が必要」、「高齢者や障害者が住みよいまちは、交通アクセスや住宅環境の充実が必要不可欠なため見直す必要がある」、行政依存ではなく、自分たちは今、何ができるのかを考えたい」などの活発な意見を出していました。シンポジウムで出された意見は、3月までにまとめられ報告書に反映させるそうです。

暴力団員を排除し市民を守る

—つがる市とつがる署が県内初の合意書調印—

1月15日、市役所で市とつがる警察署は県内で初となる暴力団員による市営住宅等の使用を制限する合意書に調印を行い、暴力団員の排除について相互の連携を図りました。

今回の合意書の調印は、昨年4月に東京都町田市の都営住宅で暴力団員による立てこもり発砲事件が発生したことを契機として、同6月に国土交通省は各都道府県に「公営住宅における暴力団排除について」の基本方針等を示したのを受け、市では同9月につがる市営住宅条例等を一部改正して暴力団員の入居に対する制限を制定しました。

合意書には「入居者本人や同居人が暴力団員である場合は、新規入居は認めない」、「入居済みの世帯でも暴力団員と判明すれば、退去勧告し明け渡しを求める」等が記載されており、福島市長と八戸文憲署長が署名をして合意書を交わしました。福島市長は「つがる警察署と連携を図り、暴力団員による不当行為の防止や暴力団員の排除に努めていきます」とあいさつ。また、八戸署長は「暴力団取り締まりを強化し、暴力団員排除活動を推進して安全・安心のまちづくりのために努力します」と述べていました。



合意書に調印し握手する福島市長と八戸署長

騎手から調教師へ転身

北海道ばんえい競馬元騎手・坂本東一さん

1月21日、北海道ばんえい競馬で最年長ジョッキーとして活躍し、現役最多の2681勝を挙げて昨年末に引退した坂本東一さん（木造浦船出身）が福島市長を表敬訪問しました。

坂本さんは、ばんえい競馬の騎手になるために18歳で北海道にわたり、1995年には通算1000勝、2003年には2000勝、2007年6月には2500勝を達成し、昨年12月30日のレースを最後に現役を引退しました。

また、ばんえい競馬界からは初の日本プロスポーツ大賞功労賞を受賞し、副賞の賞金9万円を市に寄附してくださいました。福島市長は「長い間ご苦労さまでした。市民のために有効に使わせていただきます」とねぎらいの言葉を掛け、坂本さんは「プロの世界は厳しく名前を売るのが大変でした」と話していました。

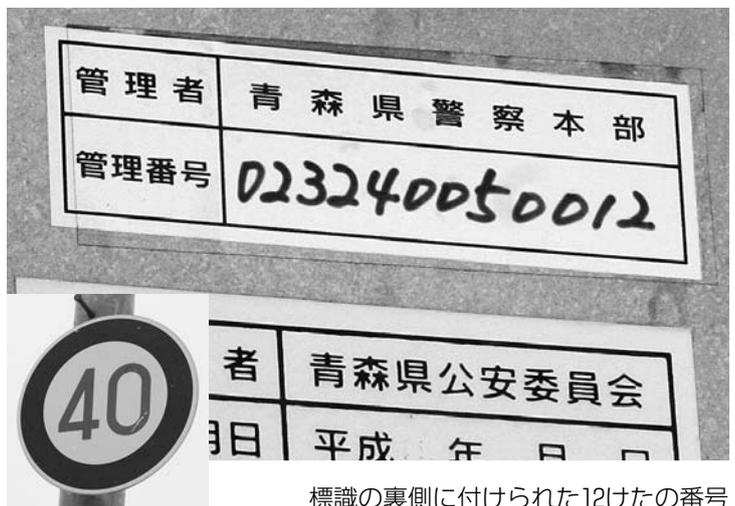
4月からは調教師としての道を歩むことから、「いい馬を育て、騎手に乗ってもらうことが私の仕事です」と抱負を語っていました。



福島市長からねぎらいの言葉を掛けられた坂本さん

「ここはどこ？」もしものために確認を

土地勘がない場所や目標物がない山道などで、交通事故や何らかのトラブルに巻き込まれ110番通報をした場合、自分の居場所を特定できるようにと青森県警は、県内の道路上にある交通標識に12けたの番号を付けました。番号が付けられたのは、一時停止、駐車禁止、速度規制等の標識で、その番号を伝えると県警では瞬時に通報位置を把握できることから、警察官が現場に到着するまでの時間は確実に短縮されますので、ご確認ください。



標識の裏側に付けられた12けたの番号



蓮川コミュニティ消防センターが完成 —旧蓮川小学校敷地内—

1月6日、旧蓮川小学校敷地内に昨年から着工していた蓮川コミュニティ消防センターが12月21日に完成し、落成記念式典が行われました。

記念式典には地域住民ら約80人が出席し、建設実行委員会の中野警会長は「皆さんの協力で本日を迎えることができました。今後は、この施設を拠点として行政と連携しながら、青少年の健全育成、老人クラブ組織の活性化や防犯対策の強化に努めていきます」と述べました。

交通死亡事故ゼロを願い —交通安全協会—

1月6日、三新田神社でつがる地区交通安全協会関係者約30人が出席し平成20年の交通安全祈願祭を行いました。

同協会の桜庭会長は「昨年は残念ながら1人の死亡者が出てしまいました。今年は関係者が一丸となって交通死亡事故ゼロを目指して活動しましょう」と決意を述べました。

昨年のつがる警察署管内の交通事故発生状況は発生件数123件、死者1名、負傷者164名という状況で、今年も取り組みを強化し交通死亡事故撲滅に取り組みます。



警察協力者に感謝状 —つがる警察署—

1月10日、松の館で平成19年警察協力者・優良警察職員表彰式が行われました。

この表彰は、警察活動に協力、功績のあった個人や団体に贈られるもので、個人の部で18人、団体の部で12団体、優良警察職員13人が表彰されました。

八戸署長は「安全で安心して暮らせるまちづくりのために、地域の皆さんと治安維持に取り組んでいきます」と式辞を述べ、受賞者に感謝状を手渡しました。

「起きてからでは遅い」災害対策を学ぶ —コーディネーター育成—

1月17日、松の館で平成19年度災害ボランティアコーディネーター養成研修が行われ、ボランティア団体や社会福祉協議会職員ら約40人が参加しました。

講義では、JPCOM代表の桑原英文講師は「災害が起きてからではなく、日常から災害に備え、ちょっとした心がけで命と暮らしが守られます」と話していました。

また、災害ボランティア支援センターの役割や被災者への支援活動等についてグループに分かれてワークショップも行われ、万一の災害時に対応できるよう学んでいました。



オンリー・ワンの雪だるま —ウィンターフェスティバル—

1月26日、道の駅もりた「アーストップ」でウィンターフェスティバルが行われ、大勢の子どもたちでにぎわいをみせていました。子どもたちは寒さや吹雪などおかないなしに雪だるまを作り大きさを競い合っていました。特設会場には、大人4、5人が入るかまくらや雪のすべり台などが設営され、豚汁やおにぎりが格安で販売されており、冷えた体を温めながら楽しい時間を過ごしていました。